

全レポート一覧表示 ▼
日本大学文理学部国文学科
お問い合わせ

日本大学文理学部
国文学科
NIHON UNIVERSITY, DEPARTMENT OF
JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE.

Introduction
はじめに

Group1
携帯メールにおける
絵文字使用に関するアンケート

Group2
流行語と顔文字における
認知度と使用頻度の差

Group3
外来語と和製英語の
認識について

Group4
敬語の使用に関する調査

Group5
日本語の誤用について

Group6
電子メールに対する意識調査

このページを印刷 (印刷用PDF)

検索

アンケート 日本語学 超入門編!

日本語学基礎演習 1

Group2 流行語と顔文字における認知度と使用頻度の差

<荒川班>
荒川 里美
杉田 沙樹
巴 千草

[PDF 荒川班 発表データ \(PDF\)](#)
[PDF 使用した調査票 \(PDF\)](#)

調査概要

目的

流行語と顔文字について、性別やメディア（テレビ・インターネット）との接触時間などによって、その使われ方にどのような差があるかを調べる。

調査方法

調査票によるアンケート

調査対象

日本語学基礎演習1を履修する学生19名（男性12名・女性7名）

有効回答数

19

「顔文字スコア」の定義

III. 以下の質問にお答えください。

(2)(1)で「1.よく使用する」または「2.たまに使用する」と答えた方に質問です。以下の顔文字について、「1.よく使用する」「2.たまに使用する」「3.使用しない」の3つの選択肢の中から最もあてはまる空欄に○を付けてください。

・ (^o^)/ ・ f^_^; ・ (^人^)^ ・ (+_+) ・ (；_；) ・ φ(..)

仮説

→ 仮説①：女性のほうが、男性よりも顔文字を多く使っている。（巴）

→ 仮説②：メールの送信数が多い人ほど、顔文字を多く使っている。（杉田）

→ 仮説③：インターネットを利用する時間が多い人ほど、流行語・顔文字ともに使用率が高い。（荒川）

→ 仮説④：テレビを見る時間が多い人ほど、流行語の認知度が高い。

全体のまとめ

 [ページ TOP へ](#)

Copyright (C) 2011 Department of Japanese Language and Literature. All right reserved.